

## ウイルス感染とアレルギー

梅の花が咲き、さわやかな香りを楽しめるこの頃です。さて、1~2月のインフルエンザの猛攻も、落ち着き、これから増えるヒト・メタニューモウイルスや細菌感染に注意する時期になりました。細菌は細胞のほぼ10分の1の大きさですが、効く抗生物質がいろいろあります。ウイルスは細胞膜を持たず、人や動物の細胞の中でしか増殖できず、大きさも細胞の100分の1から1000分の1で、有効な薬は多くはありません。ウイルスは、急性の症状が出て、抗体ができて治るものと、慢性、急性感染後、潜伏感染になり免疫力が低下した時に再燃するものがあります。この潜伏感染とアレルギーの関連がさらにわかってきました。サイトメガロウイルス、水痘ウイルス、共にヘルペスウイルスの仲間ですが、このサイトメガロウイルスとアレルギーの関連、サイトメガロウイルスには、レモンマートルが無効で、生姜が有効だと、ORTの見学にいらしていた釧路の松田先生に教えていただきました。改めて、サイトメガロウイルスを検査の項目に加えますと、筋肉、自律神経、副鼻腔、内耳、三叉神経、リンパ腺、前頭葉、膀胱、などに、感染があり、さらにアレルギー、真菌、細菌、金属などが関わっている事が、より正確に見えてきました。

もう少し調べる範囲を広げて、その他のウイルスを、ORTで調べました。生姜が有効なものは、次のものです。パピローマウイルス、ライノウイルス(普通の風邪の50%以上)、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)。レモンマートルが有効なものは、次のものです。EBウイルス、水痘ウイルス、インフルエンザウイルス、ヒト・パルボウイルス(りんご病)、ライノウイルス、HIV。

レモンマートルは、生でも、ホットティー、飴に加工していても有効ですが、生姜は違います。生姜の薬効成分では、香り(シネオール)は疲労回復に、ショウガオールは、体を芯から温めるため冷え性に、ジンゲロールは強い殺菌効果、抗酸化作用、発がん予防にと、それぞれに使い分けます。ORTで調べますと、ほうじ茶や紅茶の温度でもウイルスに対する効果は大きく低下してしまいます。摂取量は、冷ややっこやそうめんを使う、絞れば3滴くらいお汁が出る程度です。それを、1日3回摂ります。体力のある方は、約1週間で良くなります。ジンゲロールは、加熱することでショウガオールに変わります。慢性の感染や、潜伏感染では、非結核性抗酸菌症やカンジダ症の治療についても何度かこのコラムで取り上げてきましたが、このような治療には自然の中にあるものが副作用も無く安全です。ドクダミやニンニク、オリーブ葉、など。もちろん摂取量は守らねばなりません。

土の中からイベルメクチンを発見して、寄生虫の治療薬を作り、失明に至る難病を救った大村智先生は、自然の中には人間に必要なものは全てある、合成物は体に良くないと、明言されています。

食物アレルギー、生活習慣、メンタルの健康、経済的、社会的健康に留意し、自然に学び、自然から必要なものをいただき、生きていきたいものです。